

増田遺跡

— 鍋島土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 —



昭和61年3月

鍋島土地区画整理組合

序 文

増田遺跡は鍋島土地区画整理組合による土地区画整理事業に先だつ埋蔵文化財確認調査によって発見されました。この遺跡は、住居址や墳墓が伴わない遺物包含層であることがわかり、関係部局と協議の結果緊急発掘調査を実施することとし、実際の調査及び整理作業は佐賀市教育委員会に担当していただきました。

今回の調査では弥生時代中頃から近世に及ぶ多数の遺跡が発見され、佐賀平野に於ける歴史研究に資するものと考えられます。

調査に当たり御協力を惜しまれなかった佐賀市教育委員会並びに発掘作業員、整理作業員の方々さらに報告書を刊行するにあたり佐賀県教育委員会をはじめ関係各位に数多くの御指導を賜り、ここに深く感謝いたします。

昭和61年 3 月

理事長 富 崎 辰 巳

本文目次

I. 序 説	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	1
II. 位置と環境	2
III. 遺 物	4
1. 弥生式土器	5
2. 土師器・須恵器	5
3. 土器観察表	5

挿 図 目 次

Fig. 1 増田遺跡周辺遺跡分布図	3
Fig. 2 増田遺跡周辺見取図	4
Fig. 3 増田遺跡出土土器実測図(1)	11
Fig. 4 増田遺跡出土土器実測図(2)	12
Fig. 5 増田遺跡出土土器台実測図(3)	13
Fig. 6 増田遺跡出土土器実測図(4)	14
Fig. 7 増田遺跡出土石器・土製品実測図(5)	15

表 目 次

Table 1 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表	5
Table 2 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表	6
Table 3 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表	8
Table 4 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表	9
Table 5 鍋島土地区画整理事業出土土器・土製品観察表	10

例 言

1. 本書は鍋島土地区画整理事業に伴い、昭和60年度事業にかかる埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査は鍋島土地区画整理組合の委託により佐賀市教育委員会が主体となり実施した。
3. 遺跡の実測は、野中須矢子・島 京子・浜田糸子が行った。製図は、野中須矢子・島 京子が行った。遺物の復元作業は西首金子・鬼崎玲子・浜田糸子が行った。写真撮影焼付は調査員が行った。
4. 本書の執筆・編集は野中の協力で福田が行った。

図版目次

図版 1	1. 確認調査状況	2. 確認調査状況	3. 遺物検出作業状況
図版 2	1. 遺物検出作業状況	2. 復元作業状況	3. 復元作業状況
図版 3	1. 整図作業状況	2. 実測作業状況	3. 復元作業状況
図版 4	1、2、3、5、9、10、11、15、16	A地点出土土器	14 B地点出土土器
図版 5	17、18、19、20、21、23、24、25、26、27、28	A地点出土土器	
図版 6	29、30、31、32、33、34	A地点出土土器	35、36、37 B地点出土土器
図版 7	38、39、40、41	A地点出土土器	42、43、44、46、47 B地点出土土器
	45	C地点出土土器	
図版 8	48、52	C地点出土土器	49、50、51、54 B地点出土土器
	53、55、56	A地点出土土器	3 B地点出土土器

I 序 説

1. 調査に至る経過

鍋島土地区画整理事業は昭和55年度に開始され、昭和57年度にはその計画が埋蔵文化財包蔵地にも及んだ。そのため鍋島土地区画整理組合と佐賀市教育委員会は埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、工事着工前に埋蔵文化財の確認調査を実施することになった。昭和57・58年度においては確認調査を行ったのみで本調査を必要とするような遺跡の検出はなかったが、昭和59年度事業ではその計画地に相当量の遺物包含層があることがわかり、確認調査に引きつづき、昭和59年12月17日～昭和59年12月22日にかけて本調査を実施した。住居址・墓地等の遺構は全く検出しなかったが、遺物包含層からコンテナ10箱程度の遺物が検出されたので両者は再度協議を行い、遺物の洗浄については昭和60年2月4日から同年2月19日まで実施することとし、遺物の整理作業は昭和60年度に実施することで合意した。

遺物の整理作業は昭和60年4月当初～6月末日まで、佐賀市教育委員会、循誘文化財収蔵庫にて実施した。

2. 調査の組織

(調査事務局)	鍋島土地区画整理組合
(調査担当)	佐賀市教育委員会 社会教育課 文化係長 北原学（現社会教育課長補佐） 事務吏員 福田義彦（担当）
現場作業員	小柳代志枝、坂本雪江、宮地峯子、広瀬八重子、大野道江、 生田ミヨ子、佐尾啓子
整理作業員	野中須矢子、西首金子、島京子、鬼崎玲子、浜田糸子
調査協力	佐賀県文化課

II 位置と環境

増田遺跡は佐賀市鍋島町大字鍋島四本杉にあって、嘉瀬川中流域東岸の平垣地に位置する。遺跡の中心は鍋島町大字増田の集落と推定されるが、その南限が今回調査を実施した付近と考える。

今回の調査は限られた期間、予算であったので応急的な処置しかとれなかったが、それでも至る所に土器包含層が検出され、遺物の量はコンテナ10箱にも及んだ。遺跡周辺は、佐賀県遺跡地図によると広範囲が埋蔵文化財包蔵地とされているが、実際は遺物の分布調査が行われたのみであり、性格、規模等は解明されていない。ただ、散布している遺物から見て、上限が弥生時代に至るのが認められ、以降各時代にわたって生活が営まれたと考えられる。上限が弥生時代になるのは、この遺跡周辺が佐賀平野の中部に位置し、嘉瀬川の近接地であることから、縄文時代には周辺の陸化は未だ進行していなかったためと思われる。

この鍋島町では発掘調査の例はないが、昭和15年頃、八戸、王龍神社付近の水田で弥生期の土器が農作業中に大量に出土したということであるが、その遺物は残念ながら散逸して現存していない。

とにかく、今回の調査で出土した遺物から見て、この鍋島地区にも古くから営々として人々の生活があったことは疑う余地はないが、特に弥生～平安時代はその実態はほとんどわかっていない。ただ、大和町に所在する肥前国府が、いつの頃からか鍋島の蛸久に移されたという記録があるが、少なくとも考古学的には立証されていない。

鍋島地区が明確に歴史に登場するのは古代末期になってからであり、永保二年（1082）に太宰府天満宮安楽寺に蛸久の庄が寄進されたという記録がある。この蛸久は天喜二年（1054）創建と伝えられている蛸久天満宮もあり、中世に一時栄えた。このことから考えあわせると前述の蛸久の府の存在はあながち伝承とばかりは言えないであろう。また、この鍋島地区はその名が示すとおり、佐賀藩鍋島家の発生の地であり中世末期に伊勢守経秀が山城国長岡から移り住んで館を構えている。

この鍋島地区は古代末から中世末期までは比較的に拓けていた土地柄であったが、鍋島勝茂の佐賀城下造営に伴い、商人や技術職人達と長瀬町に移住させたのでそれまでの賑わいはなくなり、現在に至っている。

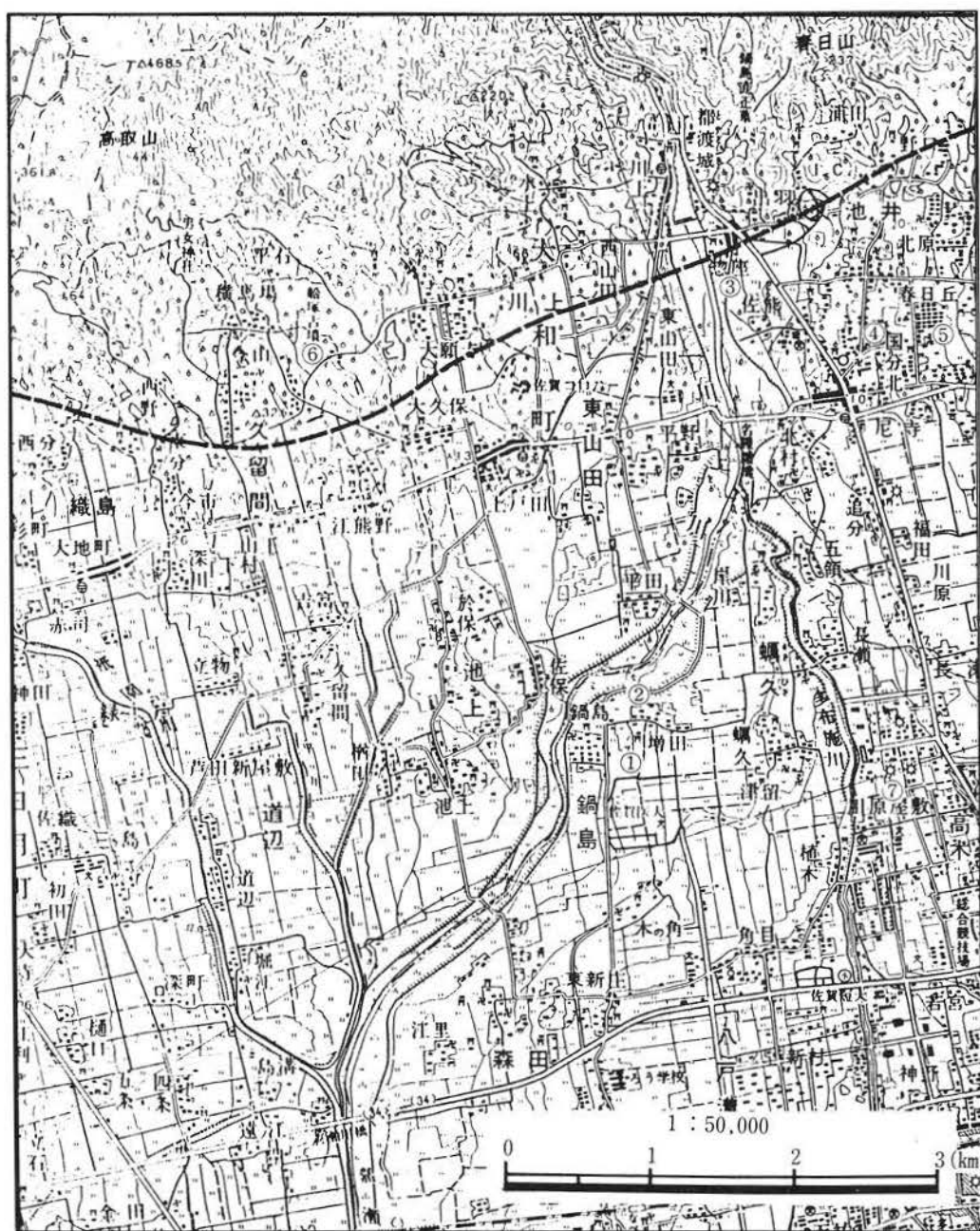


Fig. 1 増田遺跡周辺遺跡分布図

- ① 増田遺跡 ② 御館の森(鍋島家発祥地) ③ 肥前国府跡 ④ 肥前国分尼寺跡
 ⑤ 肥前国分寺跡 ⑥ 船塚前方後円墳 ⑦ 銅鉾出土地点

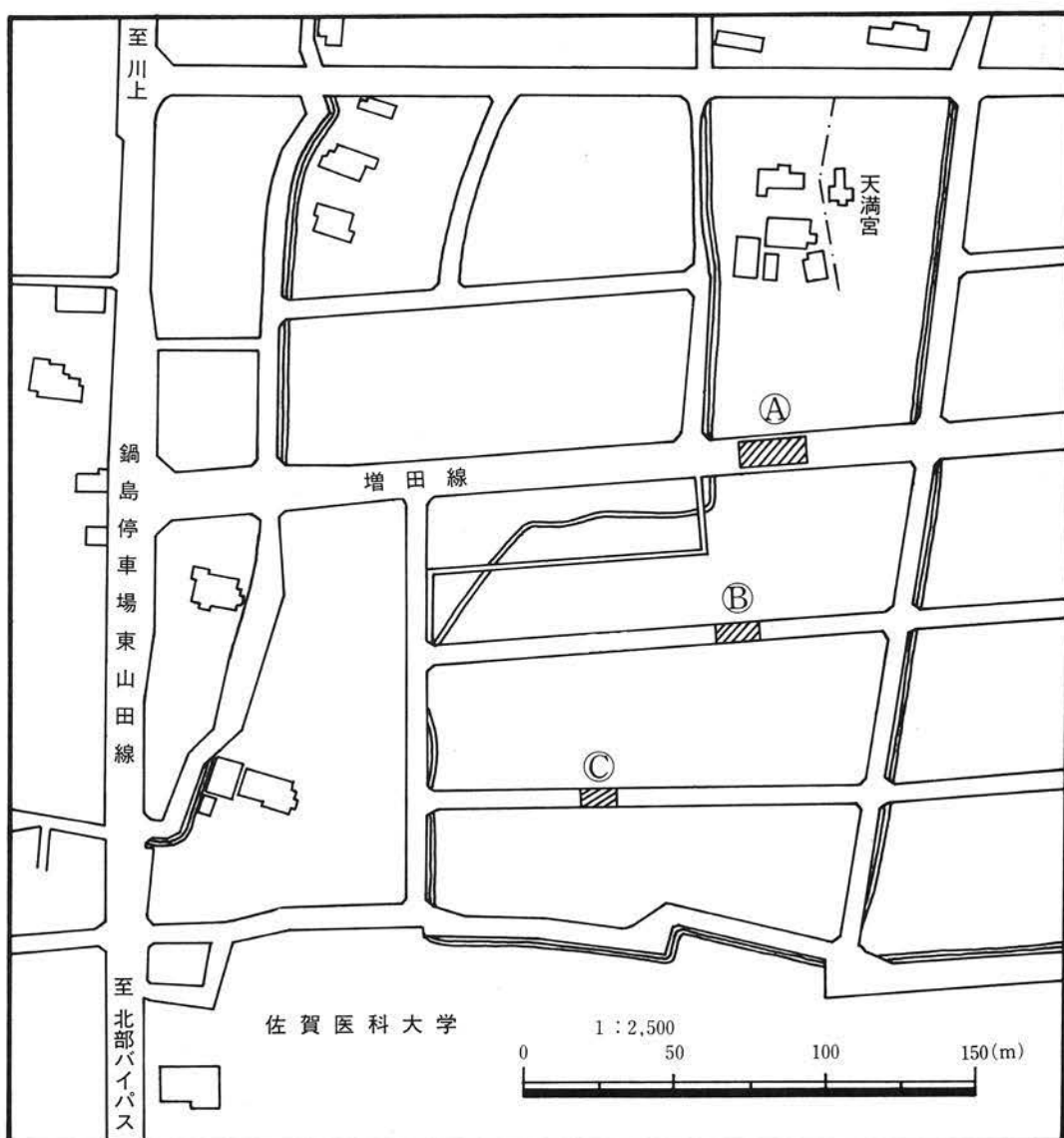


Fig. 2 増田遺跡周辺見取図

III 遺 物

前述のとおり今回の調査は遺物包含層の調査で、遺構は全く検出し得なかった。

遺物については弥生時代～中世に至るまでの様々なものを検出したが、その特徴的なものを抽出、図化し、後述の観察表によりその詳細を述べる。

1. 弥生式土器

a. 器台・支脚

器台は、最小径が中位にあるもの（A類）、やや上位にあるもの（B類）、上位にあって明確な稜が認められるもの（C類）の三種に大別した。時期的には弥生時代中頃から終末までのものと考えられ、器形差が必ずしも時期的なものに短絡的にむすびつくとは考え難く、今日はあくまで試論として位置づけたい。

また杢形器台と支脚は用途、名称自体に基本的な問題を包含しているが、ここでは一般的な意味での名称である。

b. 甕形土器

時期的には弥生時代中期のものが主流を占め、その大半がいわゆる小児甕棺に使用される程度の量である。土器包含層よりの検出であるため、特に甕形土器は破片が多く、実測図もその大半が復元図によるものである。

c. その他の土器

壺形土器、鉢型土器、高坏等を検出した。中期のものが多かったが、一部に弥生後期のものも検出した。

2. 土師器・須恵器

弥生式土器の出土量に比して少ない。しかしながら残存状況が良い。甕形土器については、いわゆる古式土師の部類に入るものと考えられるが、弥生終末期とする研究者も多い。小壺丸底埴・坏・高坏は五世紀頃のものとする。須恵器はこの甕形土器以外、ほとんど検出していない。

3. 土器観察表

- 凡 例**
- (1) 土器番号は挿図番号、図版番号に一致する。
 - (2) (推)は推定値を表す。
 - (3) 甕→甕形土器、壺→壺形土器、鉢→鉢形土器の略である。
 - (4) 器台の場合は受部径と脚径を表す。
 - (5) 単位はcmである。

番号	器種	法 量	形態の特徴	技法の特徴	出土地点・残存状況
		(1) 口 縁 径 (2) 器 高 (3) 底 径			

Table 1 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表

番 号	器 種	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	出土地点・残存状況
1	甕口縁部	(1)内径24.0 外径30.0 (2) 6.6(残) (3)	内側に突出する逆「L」字形。 頸部はわずかにクビれ口縁に向 って外反する。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 ヨコナデ。 外 面 頸部はヨコナデ。 胴部はハケ目。	A

2	甕口縁部	(1)内径24.6 外径30.0 (2) 9.6(残) (3) _____	内側に突出する逆「L」字形。 頸部はわずかにクビレ、内湾する。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 ヨコナデ。 外 面 頸部タテ方向のハケ目のあとヨコナデ。 胴部ハケ目。	A
3	甕口縁部	(1) 24.6 30.2 (2) 7.3(残) (3) _____	内側に突出する「T」字形。 頸部はわずかにクビレ、ほぼ垂直に立ち上がる。	口唇部 ヨコナデ 内 面 口縁付近押圧のあとヨコナデ。 外 面 細かいハケ目のようであるが、風化が進み消えかかっている。	A
4	甕口縁部	(1) 24.2 30.0 (2) 10.5(残) (3) _____	内側に突出する「T」字形。 頸部下部でわずかにクビレ、ほぼ垂直に立ち上がる。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 口縁付近ヘラ状工具によるナデ。ナナメ方向のナデ。 外 面 頸部タテ方向のハケ目のあとヨコナデ。 胴部ハケ目。	A
5	甕	(1) 34.0 37.0 (2) 27.6(残) (3) _____	「く」の字形口縁で端部は丸味を帯びる。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 不物定方向にナデ。特 外 面 荒いハケ目調整。 頸部にヘラ状工具でけずり取った痕跡。	A
6	甕	(1) 19.4 24.2 (2) 9.7(残) (3) _____	「く」の字形口縁で端部は丸味を帯びる。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 ナナメ方向のナデ。 外 面 頸部はハケ目のあとヨコナデ。胴部ハケ目。	A
7	甕口縁部	(1) 22.8 28.0 (2) 6.5(残) (3) _____	逆「L」字形の口縁部を持つ。 口唇端部は少し垂れる。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 押圧のあとナデ。 外 面 頸部はクビれる。 ハケ目のあとヨコナデ。 ハケ目は風化のため消えかかっている。	A
8	甕口縁部	(1) 20.4 25.8 (2) 10.9(残) (3) _____	逆「L」字形の口縁を持つ。 口唇端部は少し垂れ、角張っている。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 口縁付近ヘラ状工具使用のあとヨコナデ。 胴部はナナメ方向のナデ。 外 面 タテ方向のハケ目のあとヨコナデ。2種類のハケを使用。 内外面とも赤色顔料が塗布されている。外面は特に鮮明に残る。内面は口縁付近に残る。	A
9	甕口縁部	(1) 22.0 32.0 (2) 22.0(残) (3) _____	内側に強く突出する「T」字形口縁を持つ。 胴部丸くふくらみを持ち、断面三角形の凸帯を一条。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 押圧のあとナデ。 外 面 ハケ目。 凸帯部 ヨコナデ。	A
10	甕	(1) 16.0 20.0 (2) 21.3 (3) 7.5(推) 最大径23.0	「く」の字状に外湾。内側に稜を有する。 胴部はふくらみを持ち、最大径の位置に断面三角形の凸帯を有する。	口唇部 ヨコナデ。 内 面 押圧のあとナデ。 外 面 ハケ目凸帯部ヨコナデ。 暗茶色の顔料塗布。	A

Table 2 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表

番 号	器 種	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	出土地点・ 残存状況
11	甕	(1) 15.3(推) (2) 13.2 (3) 7.6	逆「L」字形の口縁を持つ。 口縁下部に断面三角形の凸帯一条をめぐらす。 底部からわずかに内湾しながら立ち上がる。	口縁部 ロクロナデ。 内 面 押圧のあとナデ。 外 面 凸帯部ヨコナデ。 胴部はヨコ方向のヘラ磨き。 一部磨滅して消えている。	A 残存50%弱

12	甕口縁部	(1)内径13.3(推) 外径16.2(〃) (2) 5.6(残) (3) —	逆「L」字形の口縁を持つ。口縁下部に断面三角形の凸帯を1条めぐらす。	口縁部 内 面 ナデ。 外 面 ロクロナデ。	C
13	甕底部	(1) — (2) 4.35(残) (3) 7.9(推)	わずかにあげ底の平底を有する。	内 面 押圧のあとナデ。 外 面 ヘラ磨きであるが底部もヘラ磨きがある。	A
14	甕底部	(1) — (2) 6.0(残) (3) 5.0	中央付近のみあげ底で、しばったような痕跡がある。	内 面 底部はくぼみがあり、タタキのあとナデ。 外 面 ヘラ削りのあとハケ目をつけ、その後ナナメ方向のナデ。	B
15	甕底部	(1) — (2) 4.3(残) (3) 5.3	中央付近のみあげ底である。	内 面 ナデ。 外 面 ヘラ削りのあとハケ目。磨滅して消えかけている。	A
16	甕底部	(1) — (2) 2.4(残) (3) 6.0	中央付近のみわずかにあげ底。胴部にかけて大きく外反し、立ち上がる。	内 面 ナデ。 外 面 ヘラ削りのあとハケ目。磨滅して消えかけている。	A
17	甕底部	(1) — (2) 4.0(残) (3) 6.0	あげ底気味の平底。	内 面 ヘラ削りハケ目であるが、磨滅して消えかかっている。 外 面 ヘラ磨き。	A
18	甕底部	(1) — (2) 7.4(残) (3) 66.0	平底を有する。	内 面 押圧のあとナデ。 外 面 ヘラ磨きをしていたと思われるが、磨滅してわからない。	A
19	蓋	(1)上径 1.4 (2) 2.3 (3) 12.5(推)	つまみ部はわずかにくぼみを有し、裾部にゆるやかに外反しながら下がる。	内 面 ヘラ磨きのようなのであるが磨滅してわからない。 外 面 タテ方向にヘラ磨きのあとナデによる調整と思われるが磨滅して消えかかっている。	A 残存50%
20	甕	(1) 17.4(推) (2) 16.2(推) (3) 8.5(推)	「く」の字形口縁を有し、口唇部は角張っている。胴部上位に最大径を持ち、底はわずかにあげ底。	内 面 口縁部ヨコナデ。頸部下部と胴部下部に押圧痕。あとはナデ。 外 面 頸部はヨコナデ。ナナメ方向のナデ。磨滅している。	A
21	甕口縁部	(1) 21.0(推) (2) 27.0 (3) 6.2(残)	鋤状口縁を有する。	内 面 押圧痕、ヨコナデ。 外 面 ヘラ削りのあとヨコナデ。	A
22	高坏・坏部	(1) 28.2(推) (2) 5.4(残) (3) —	口唇部は角張っている。	内 面 ヨコ方向のハケ目のあとヨコナデ。 外 面 ヨコ方向のハケ目のあと押圧。その後ナナメ方向のナデ。	C
23	鉢	(1) 14.8(推) (2) 7.1 (3) 4.8(推)	わずかにあげ底の平底を有し、内湾しながら立ち上がる。口唇部は丸味を帯びる。	内 面 押圧の痕。底部にハケ目痕。 外 面 押圧のあと胴部にハケ目。ナデ。	A 残存30%
24	鉢	(1) 16.2(推) (2) 11.1 (3) 7.6	平底を有し、内湾しながら立ち上がる。口唇部はやや丸味を帯びる。	内 面 押圧のあとナデ。 口縁直下はロクロナデ。 外 面 口縁下はロクロナデ。沈線を何条かつけているが、1周していない。	A 残存50%弱
25	高坏・坏部	(1) 27.5(推) (2) 5.2(残) (3) —	口唇部は角張っている。外面中程に断面三角形の凸帯を1条めぐらす。	内 面 丹塗りを施し、ヘラ磨き調整。 外 面 丹塗りであるが磨滅して消えかかっている。タテ方向のヘラ磨きがあったと思われるが磨滅してわからない。凸帯。ヨコナデ。	A

26	高 坏	(1)内径15.6 外径24.2 (2) 15.9(残) (3) ———	わずかに外反する鋤状口縁を有する。	内外面共に丹塗りであるが大部分剥離している。 支脚部はタテ方向のヘラ磨き調整である。	A
----	--------	---	-------------------	---	---

Table 3 鍋島土地区画整理事業出土器台観察表

番 号	器 種	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	出土地点・ 残存状況
27	A 類	(1)内径 8.6(推) 外径 9.8(〃) (2) 12.65 (3)内径10.1(〃) 外径11.4(〃)	クビレは中位。 胴部はやや厚い。	外面 受部と裾部は回転ヨコナデ。 胴部はタテ方向のハケ目。 内面 受部はヨコナデ。 裾部は押圧のあとヨコナデ。 胴部は押圧痕。	A
28	A 類	(1) 9.3(推) 10.4(〃) (2) 12.2 (3) 10.3(〃) 11.3(〃)	クビレは中位。	外面 受部と裾部は回転ヨコナデ。 胴部はタテ方向のハケ目。 内面 受部ヨコナデ。 裾部にヨコ方向のナデ。 胴部にタテ長の押圧痕。	A
29	A 類	(1) ——— (2) 9.4(残) (3) 9.3 10.3	クビレは中位。	外面 裾部ヨコナデ。 胴部タテ方向のハケ目。 内面 裾部にヨコ方向のハケ目。 胴部に押圧痕。	A
30	A 類	(1) 8.9(推) 10.0(〃) (2) 13.8 (3) 9.9 10.7	クビレは中位。	外面 受部と裾部に回転ヨコナデ。 胴部木口状工具によるタテ方向のハケ目。 内面 受部にハケ目による波形文様。 裾部ヨコナデ。 胴部ヨコナデ。	A
31	B 類	(1) 7.8 8.7 (2) 13.0 (3) 9.5 10.6	クビレはやや上位。 裾端部は角張っている。	外面 受部、裾部共に回転ヨコナデ。 胴部にタテ方向のハケ目があるが、風化が進んで消えかかっている。 面取りのヘラ痕。 内面 受部、裾部共にヨコナデ。 胴部にタテ長の押圧痕。	A 完 形
32	B 類	(1) 8.8(推) 9.7(〃) (2) 13.9 (3) 9.8(〃) 10.9(〃)	クビレはやや上位。	外面 受部、裾部共に回転ヨコナデ。 胴部タテ方向のハケ目、磨滅している。 内面 受部、脚部ともにヨコナデ。 胴部ヨコナデのあと押圧痕。	A
33	B 類	(1) 7.9(推) 9.0(〃) (2) 10.0(残) (3) ———	クビレはやや上位。 受部は丸味を帯びる。	外面 受部ヨコナデ。 胴部は面取りのあとタテ方向のハケ目。 内面 受部ヨコナデ。 胴部に細いヘラ状工具による痕。	A
34	B 類	(1) 12.0(推) 12.8(〃) (2) 15.7 (3) 12.2(〃) 13.6(〃)	クビレはやや上位。 受部、裾端部は角ばる。 全体に薄い。	外面 受部ヨコナデ。 クビレに押圧のあとタテ方向のナデ。 内面 受部、裾部ヨコナデ。 胴部押圧痕。	A

35	C 類	(1)内径14.7(推) 外径16.0(〃) (2) 20.05 (3) 13.9(〃) 16.6(〃)	クビレは上位にあり、全体に厚い。 受部、裾部とも角張っている。 受部、裾部共角張っている。	外面 ナナメ方向に細い棒状工具によるタタキのあとタテ方向のハケ目。 内面 受部ハケ目。 胴部から裾部にかけてヘラ状による痕。	B
36	C 類	(1) 14.2 15.0 (2) 20.6 (3) 13.8 16.6	クビレは上位にあり、受部、裾端部は角張っている。 全体に厚く、裾部で1度クビれて広がる。	外面 ナナメ方向に細い棒状工具によるタタキのあとタテ方向のハケ目。 内面 受部ハケ目。 胴部はタテ方向のナデ。 裾部はヨコ方向のハケ目のあとヘラ状による痕。	B
37	C 類	(1) 18.4 (2) 18.0(残) (3) —	クビレは上位にある。 受部は角張っている。 全体に厚い。	外面 受部はヨコナデ。 棒状工具によるタタキのあとハケ目。 風化が進み消えかかっている。 内面 受部ハケ目。 胴部タテ方向のナデ。	B
38		(1) 6.0 (2) 10.4 (3) 6.6	中央がややクビレ、裾部が受部よりやや広がっている。 全体に厚く穴は通っていない。	外面 タテ方向のヘラ磨きのあと赤色顔料塗布痕あり。 剥離がみられる。	A
39		(1) 6.8 (2) 10.0 (3) 11.8	受部は内側に張り出し、裾部は外反する。	外面 タテ方向に面取りがありナデによる。 内面 受部はナデのあと押圧。 裾部ヨコナデ。	A
40		(1) 7.0 (2) 12.2(残) (3) —	受部は内側に張り出し、逆「L」字形になる。 胴部はほぼ垂直におりる。 クビレはない。	外面 押圧のあとナデ。 内面 押圧。 手づくねのようにみうけられる。	A
41		(1) — (2) 10.3(残) (3) — (4) 鐙部径 28.4	筒形器台。 鐙ヨコに張る。	外面 ヨコ方向のナデのあとタテ方向にヘラ状工具による暗文。丹塗りでであるが大部分剥離。 内面 鐙部ヨコナデ。 他はタテ方向のナデ。	A

Table 4 鍋島土地区画整理事業出土土器観察表

番号	器種	法 量	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	出土地点・ 残存状況
42	甕	(1) 21.2 (2) 28.2 (3) 丸底	口縁はやや外反する。 外頸部に稜を有する。 最大径は口縁部にある。	口縁部 ナナメもしくはヨコ方向のハケ目。 内面 胴部細かいハケ目のあとナナメ方向のナデ。底部に押圧痕。 外面 胴部上半にタタキ、下半部にヘラ削り。	B 残存60%
43	甕口縁部	(1) 12.4 (2) 9.8(残) (3) —	口縁部はわずかに外反する。 頸部内面にわずかに稜を有する。	口縁部 内面は細いハケ目。 外面 口縁から肩部にかけてタタキ。	B
44	甕口縁部	(1) 26.0 (2) 16.8(残) (3) —	口縁部は外反し、頸部内外共に稜を有する。	内面は口縁部から胴部にかけてハケ目を有し、外面はタタキである頸部に指頭圧痕がある。	B
45	丸小底埴形	(1) 6.5 (2) 5.7(残) (3) —	口縁部は内湾し、内面頸部に稜を有する。 手捏風である。	内面 口縁部にハケ目を有し胴部ナデ、頸部から肩部にかけて押圧痕。 外面 全体的にハケ目のあとナデ。	C
47	鉢	(1) 14.0 (2) 7.1 (3) 丸底	少し平になった丸底で、厚みのある鉢である。	内面 口縁部にヨコ方向のハケ目を有し押圧の後タタキの後ナデ。 外面 ロ縁ハケ目のあと押圧ナデ。	B 残存60%

48	小壺	(1) ——— (2) 7.8(残) (3) 5.85	丸味を帯びた平底で、丸味を持って立ち上がる。	内面 底部近くにへう削りのあとヨコ方向のハケ目。 外面 全面に押圧痕があり、タテ方向のナデ。	C
49	高坏支脚部	(1) ——— (2) 9.2(残) (3) ———	わずかに中央がクビれている。支脚部と裾部の間に焼成前の穿口を2個～3個有する。	内面 ヨコ方向のナデ。裾部にナナメ方向のハケ目。 外面 全面にへう削りのあとハケ目を有する。	B
50	高坏脚部	(1) ——— (2) 11.0(残) (3) 裾部径 12.9	支脚部は中央部がわずかにクビれていて、支脚部と裾部の間に焼成前穿口を3個有する。	内面 支脚部はタテ方向のナデ。裾部はヨコ方向もしくはナナメ方向のハケ目。 外面 全面にへう削りのあとハケ目をつけているが、風化がすすみ消えかかっている。	B
51	鉢	(1) 14.3 (2) 5.3(残) (3) 丸底	底部から丸味を持って立ち上がり、口縁付近はほぼ垂直である。	内面 押圧のあとハケ目調整であるが、磨減している。 外面 磨減のためハケ目が消えかかっている。	B
52	鉢	(1) 14.8 (2) 3.4(残) (3) 丸底	尖り気味の丸底で、口縁部で外反している。	押圧のあとハケ目調整であるが内外面共磨減のため消えかかっている。	C
53	鉢	(1) 15.8 (2) 6.3(残) (3) 丸底	厚みがあり、口縁部は内湾している。	口縁付近押圧のあと細めのへう状工具によるヨコナデ。外面もヨコナデ。外面もヨコナデ。丹塗りでである。	A
54	坏	(1) 15.0(推) (2) 6.75 (3) 高台径 9.85(〃)	口縁部は外反する。 高台部をあとからはり付けている。	内外面共回転ヨコナデ。	B 残存50%強
55	坏土師器	(1) 14.6(推) (2) 3.6 (3) 9.2(〃)	内外面共にロクロナデを有し、口縁部は外反する。	内外面共にロクロナデ。 底部に板目あり。有	A 残存50%
56	甕須恵器	(1) 21.2(推) (2) 7.1(残) (3) ———	「く」の字形口縁を持ち、口唇部は角張っている。 頸内外共稜を有する。	口縁内部はロクロナデによる肩部にタタキを有する。 口縁外部はロクロナデ肩部にタタキの痕が消えかかっている。	A
57	火鉢	(1) 26.9(推) (2) 4.8(残) (3) ———	比較的厚みがあり、口縁部はわずかに外反する。 口縁部は口張っている。	内面 ヨコ方向のハケ目。 外面 口縁から2cm位下部に3条の沈線をめぐらし、その下部に花柄の連続刻文様があるが、1周したかは不明。	C

Table 5 鍋島土地区画整理事業出土石器・土製品観察表

(単位: cm)

番号	器種	出土地点	石質	長さ	最大幅	厚さ	備考
1	石 鏃	Na16	サヌカイト	5.5	2.2	0.9	完 形
2	〃	〃	〃	3.3	1.3	0.9	
3	石 剣	〃	粘板岩質	6.7	4.3	1.7	再利用痕跡有り
4	不 明	〃		2.7	3.5	1.2	
5	石 鏝	〃		8.8	2.6	1.4	
6	石 斧	〃	砂 岩 質	5.4	4.6	0.9	
7	〃	Na 2		5.7	5.5	1.7	
8	〃	Na16	砂 岩 質	8.3	5.3	1.7	
9	カマド支柱	Na 2	———	11.3	4.6	4.4	
10	〃	〃	———	10.8	3.3	3.2	
11	投 弾	Na16	———	3.2	2.0	1.8	完 形
12	〃	〃	———	2.4	2.6	1.7	完 形

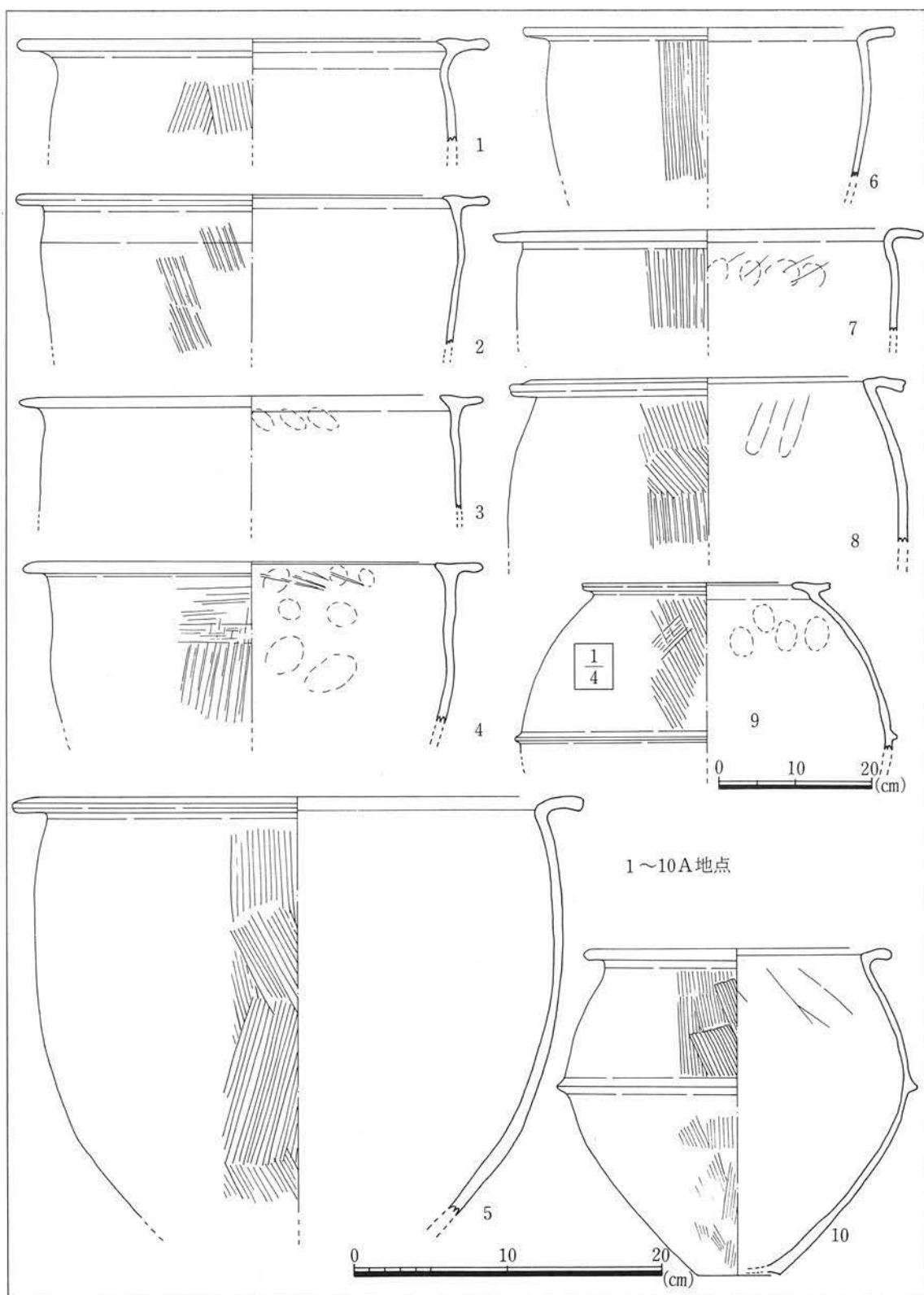


Fig. 3 増田遺跡出土土器実測図(1)

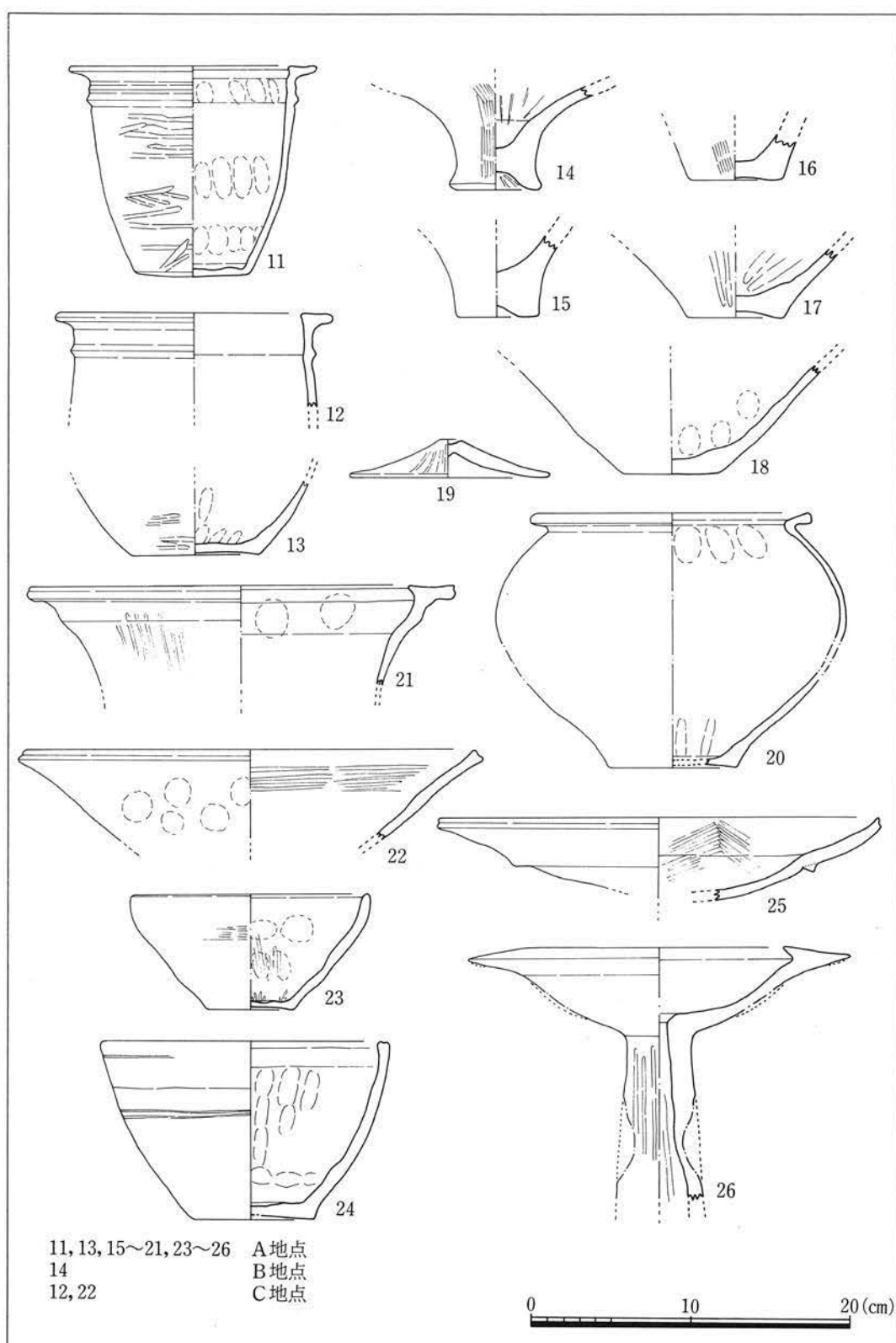


Fig. 4 増田遺跡出土土器実測図(2)

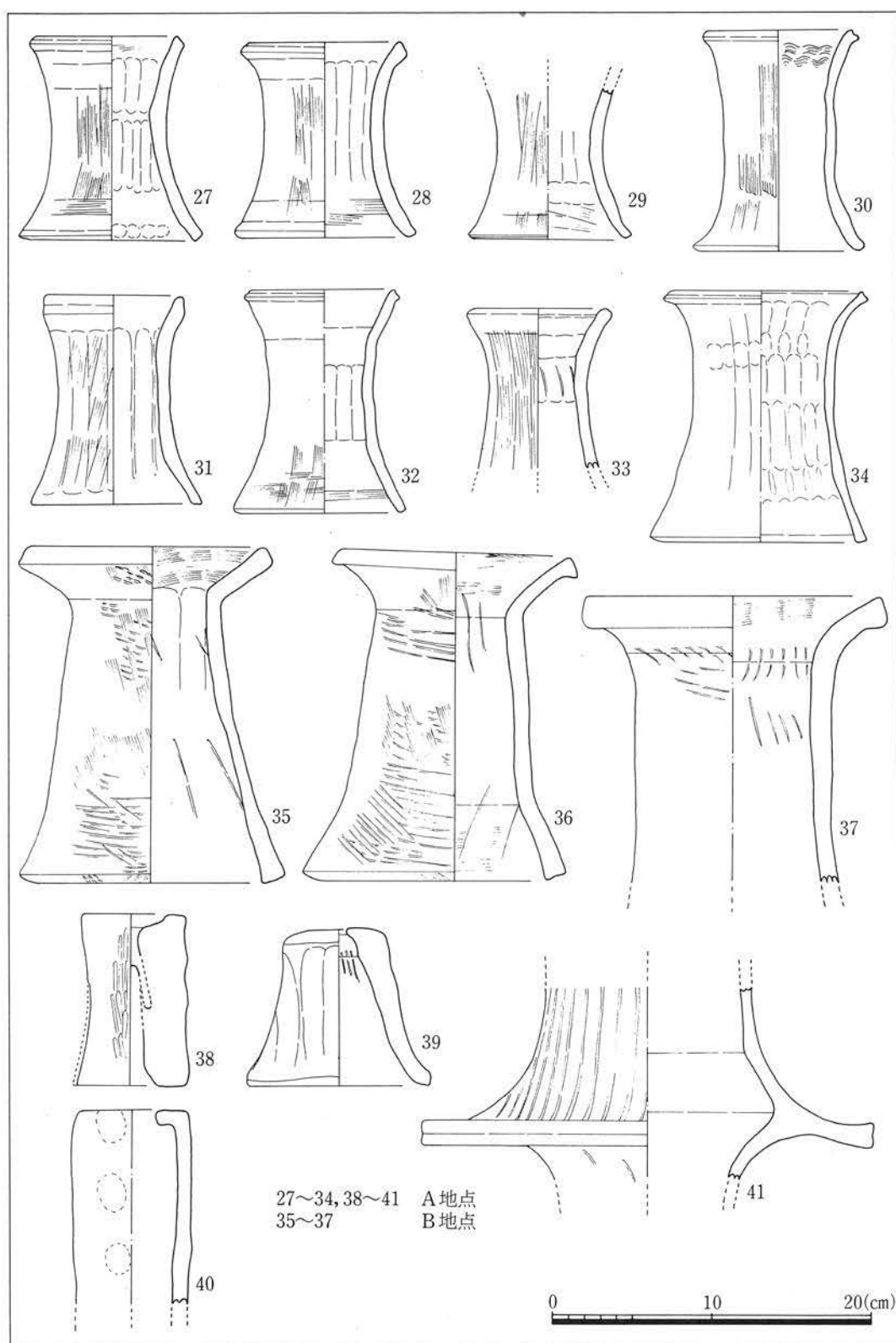


Fig. 5 増田遺跡出土土器実測図(3)

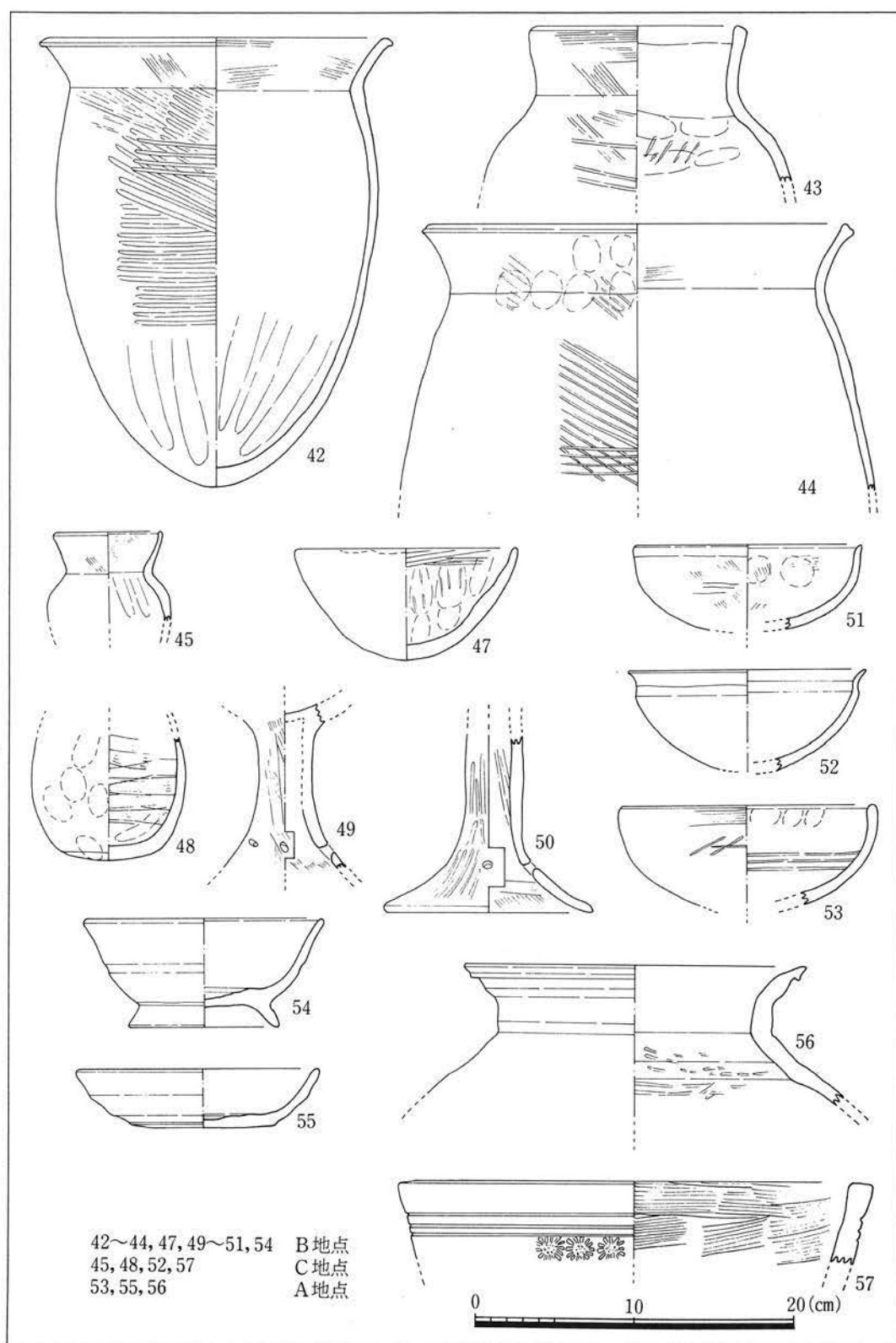


Fig. 6 増田遺跡出土土器実測図(4)

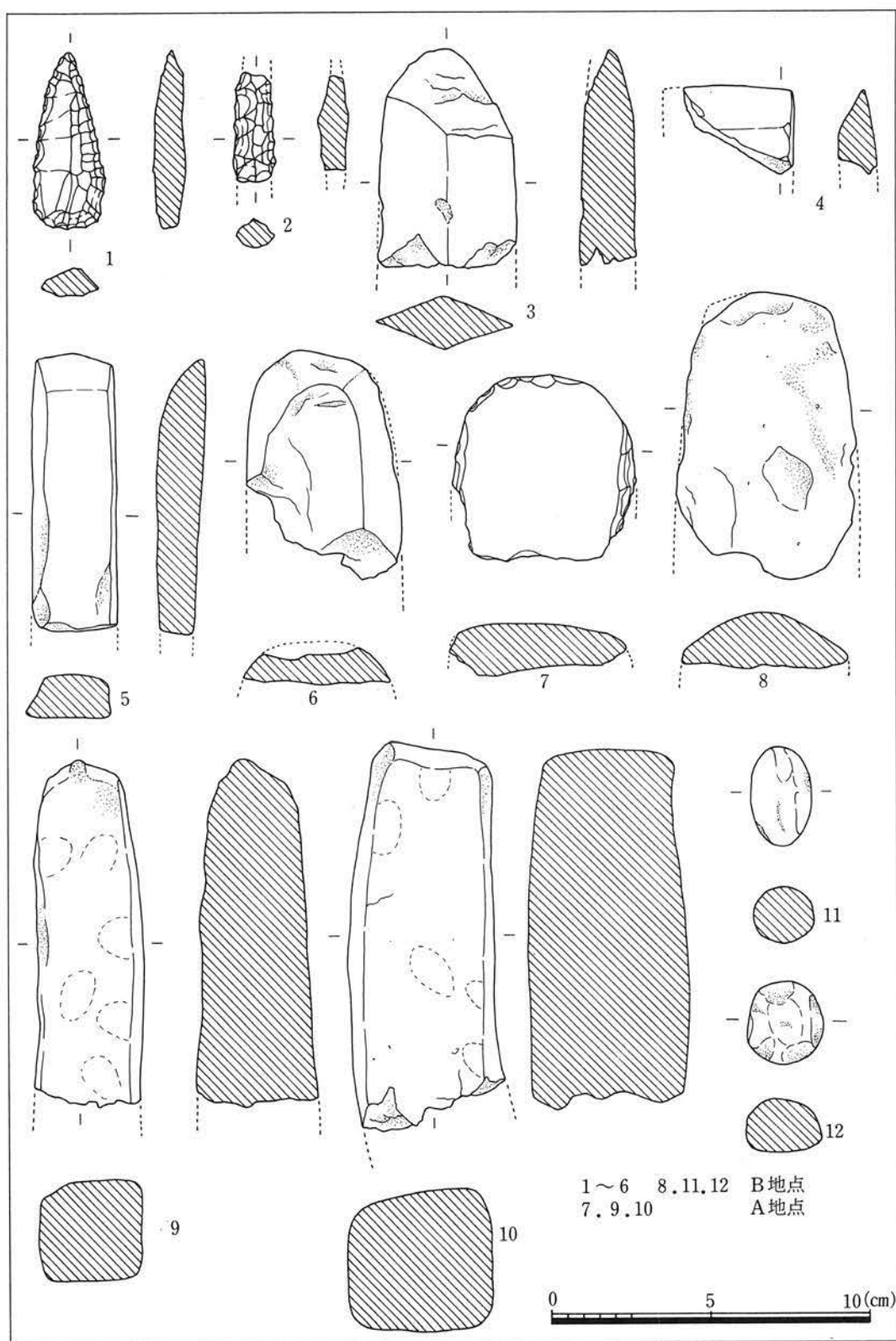


Fig. 7 増田遺跡出土石器・土製品実測図(5)

版 図



1. 確認調査状況
2. 確認調査状況
3. 遺物検出作業状況



1. 遺物検出作業状況
2. 復元作業状況
3. 復元作業状況



1. 整図作業状況
2. 実測作業状況
3. 復元作業状況



1



2



3



5



9



10



11



14



15



16



17



18



19



20



21



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



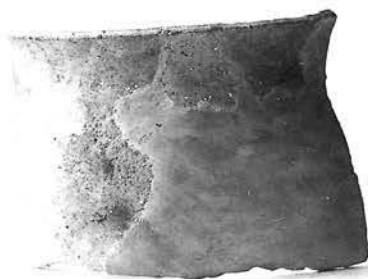
41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



3

増田遺跡

昭和61年3月

発行 鍋島土地区画整理組合

印刷 (株) 宮地印刷
佐賀市長瀬町11-20